

タカラバイオ (コード 4974)

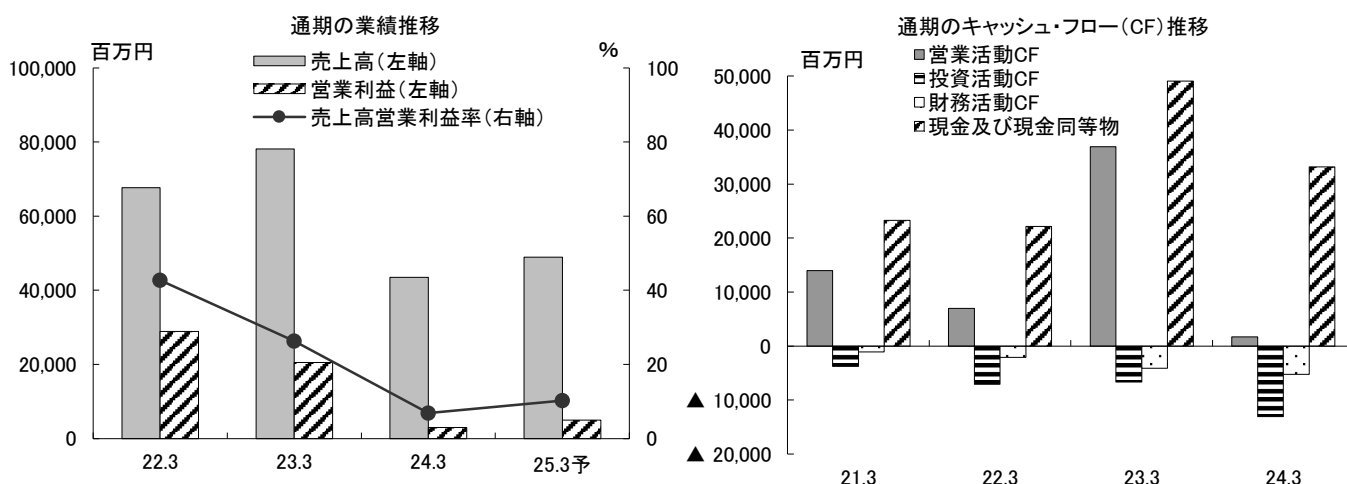
◆通期業績推移(連結) (25.3 予は会社側発表値)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
22.3	67,699	28,902	164.8	33.0	6,985	▲7,071	▲2,070	22,160
23.3	78,142	20,541	133.0	42.0	36,897	▲6,693	▲4,119	49,058
24.3	43,505	3,003	12.3	17.0	1,711	▲13,043	▲5,233	33,171
25.3予	48,900	5,000	28.2	17.0	-	-	-	-

◆各決算期の第2四半期業績推移(連結) (25.3 予は会社側発表値)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
22.3	31,551	14,105	83.1	0.0	9,914	▲10,686	▲1,992	21,113
23.3	32,587	10,870	70.9	0.0	8,672	▲7,518	▲4,034	20,606
24.3	19,116	1,410	9.0	0.0	2,087	▲10,805	▲5,126	36,065
25.3予	20,200	150	0.8	0.0	-	-	-	-

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)



24年3月期の業績概況…24年3月期の業績においては、試薬セグメントの大幅な減収に加え、海外の経済不況の影響を受けてライフサイエンス研究市場の低迷などにより、売上高が前年度に比べて約44%、営業利益は約85%それぞれ減った。1株当たりの年間配当金は17円となっている。

当期の売上高は435億500万円(23年3月期比44.3%減)、営業利益は30億300万円(同85.4%減)、経常利益は34億500万円(同83.5%減)、親会社株主に帰属する当期純利益(以下、当期純利益)は14億8,000万円(同90.8%減)となった。

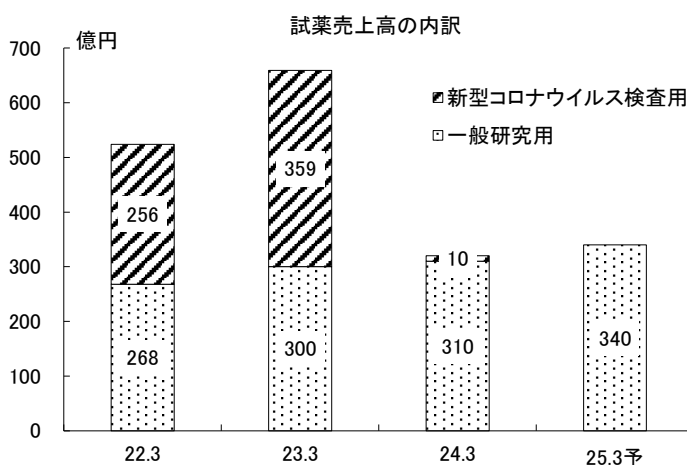
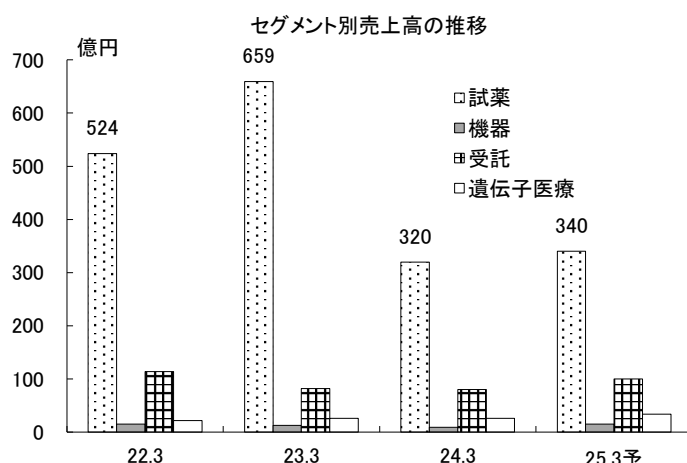
セグメント別の売上高では、試薬が319億6,100万円(同51.5%減)、機器が8億9,200万円(同35.1%減)、受託が79億9,700万円(同2.5%減)、遺伝子医療が26億5,300万円(同0.5%増)になった。試薬では一般研究用が309億4,900万円(同3.1%増)に伸びたが、新型コロナウイルス検査用は10億1,200万円(同97.2%減)へと大きく落ち込んだ。新型コロナウイルス検査用については、日本国内における感染症法上の位置付けの変更に伴って検査関連製品の販売が大きく縮小。一般研究用については、国内外でのライフサイエンス研究市場の低迷の影響はあったものの増収は確保した。機器では、PCR装置が大幅な減収となったほか、細胞解析装置についても減収に。受託では、新型コロナウイルスワクチン関連受託の縮小で再生医療等製品が40

億 6,000 万円 (同 9.1%減) に減少した一方、NGS 解析受託の回復で遺伝子解析・検査その他が 39 億 3,800 万円 (同 5.5%増) に拡大した。

キャッシュ・フロー (以下、CF) の状況については、当期末の現金及び現金同等物残高は 331 億 7,100 万円 (23 年 3 月期末比 32.4%減) となった。営業活動による CF は、税金等調整前当期純利益 28 億 5,300 万円 (23 年 3 月期比 86.6%減)、売上債権の減少額 15 億 100 万円 (同 73.7%減)、たな卸資産の増加額 3 億 2,400 万円 (23 年 3 月期は減少額 135 億 1,000 万円)、未払消費税等の減少額 34 億 3,900 万円 (同増加額 22 億 7,100 万円)、法人税等の支払額 23 億 5,900 万円 (23 年 3 月期比 76.2%減) などにより、17 億 1,100 万円の収入 (同 95.4%減) となった。投資活動による CF は、有形及び無形固定資産の取得による支出 127 億 7,800 万円 (同 122.3%増) などにより、130 億 4,300 万円の支出 (同 94.9%増) となった。財務活動による CF は、配当金の支払額 50 億 5,200 万円 (同 27.3%増) などにより、52 億 3,300 万円の支出 (同 27.0%増) となった。

25 年 3 月期の業績見通し…25 年 3 月期の業績については、売上高 489 億円 (前期比 12.4%増)、営業利益 50 億円 (同 66.5%増)、経常利益 52 億円 (同 52.7%増)、当期純利益 34 億円 (同 129.6%増) の見通しで、1 株当たり年間配当金は 17 円の予定。

セグメント別の売上高予想は、試薬が 339 億 6,900 万円 (同 8.2%増)、機器が 15 億 2,000 万円 (同 70.3%増)、受託が 100 億円 (同 25.0%増)、遺伝子医療が 34 億 1,000 万円 (同 6.3%増) となっている。試薬では、新型コロナウイルス検査用は計画に入っておらず、一般研究用 (同 10%増) が引き続き堅調に伸びる見通しで、地域別では、日本が前期のコロナ関連売上を除いて 10%増 (コロナ関連込みでは 5%減) のほか、米国 7%増、中国 26%増、欧州 5%増などが見込まれている。機器では、シングルセル解析装置、デジタル PCR 装置、自動拡散抽出装置などの新製品販売によって増収の見通し。受託においては、再生医療等製品が下半期からの mRNA ワクチン製造とこれに付随する品質試験の大口案件の寄与により 56 億円 (同 40%増) に、遺伝子解析・検査その他が新規受託メニューによる増収と下半期のフル稼働により 44 億円 (同 10%増) に拡大する見通し。



本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などにに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。